



最初にお読みください

CentreCOM® 8424XL/8424TXリリースノート

この度は、CentreCOM 8424XL/8424TX をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0005-10 Rev.B）とコマンドリファレンス（J613-M0005-13 Rev.E）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.7.3-06

2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.6.2 から 2.7.3-06 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 Welcome メッセージ (login.txt)

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「コマンドプロセッサ」

ファイルシステム上に login.txt という名前のテキストファイルが存在している場合、ログインプロンプトの前に同ファイルの内容が表示されるようになりました。

2.2 RADIUS 通信パラメーターの変更

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

RADIUS サーバーとの通信に使うパラメーターを変更できるようになりました。変更は SET RADIUS コマンドで行います。

2.3 RSO (Remote Security Officer) 機能の拡張

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「セキュリティ」

RSO と RADIUS の併用が可能になりました。

2.4 ログイン時自動実行スクリプト (autoexec.scp)

 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「スクリプト」

ファイルシステム上に autoexec.scp という名前のスクリプトファイルが存在している場合、User レベルのユーザーがログインした直後に同ファイルの内容が自動的に実行されるようになりました。Manager レベル、Security Officer レベルのユーザーがログインしたときには実行されません。

2.5 SNMPv3

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

ネットワーク管理プロトコル SNMP (Simple Network Management Protocol) のバージョン 3 (SNMPv3) に対応しました。

2.6 SNMP 管理ホストのアドレス範囲指定

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

SNMP 管理ホストのアドレスを指定するときに、「192.168.20.0/24」のような範囲指定が可能になりました。範囲指定できるのは、ADD/CREATE/DELETE SNMP COMMUNITY コマンドの MANAGER パラメーターです。トラップホストは範囲指定できません。

2.7 Telnet セッション数の制限とアイドル時タイムアウトの設定

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」**

Telnet サーバー機能において、同時確立可能なセッション数を制限できるようになりました。また、アイドル時のタイムアウトを設定できるようになりました。設定は SET TELNET コマンドの MAXSESSIONS、IDLETIMEOUT パラメーターで行います。

2.8 BPDU 透過機能

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

スパニングツリープロトコル無効時に受信した BPDU を転送する・しないの設定変更が可能になりました。設定は ENABLE/DISABLE SWITCH STPFORWARD コマンドで行います。デフォルトは無効（転送しない）です。

2.9 DISABLE SWITCH PORT コマンドの LINK パラメーター

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

DISABLE SWITCH PORT コマンドに、LINK パラメーターが追加されました。LINK パラメーターは、10BASE-T/100BASE-TX ポートでのみ有効で、DISABLE を指定するとポートを物理的にリンクダウンさせることができます。

2.10 LACP (IEEE 802.3ad)

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「LACP (IEEE 802.3ad)」**

対向するスイッチポート間でネゴシエーションを行い、トランクグループ（リンクアグリゲーショングループ）を自動的に設定する LACP (IEEE802.3ad) に対応しました。

2.11 ポート認証機能の拡張

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」**

スイッチポート単位で LAN 上のユーザーや機器を認証するポート認証機能を以下のとおり拡張しました。

- MAC アドレスに基づいて機器を認証する MAC アドレスベース認証 (MAC ベース認証) に対応しました。
- RADIUS サーバーから受け取った認証情報に基づいてポートの所属 VLAN を変更するダイナミック VLAN に対応しました。ダイナミック VLAN は、802.1X 認証、MAC ベース認証のどちらでも利用可能です。
- EAP-Notification メッセージに対応しました。
- 802.1X Authenticator ポートにおいて、認証方式 EAP-TLS に対応しました (EAP-TLS を使用する Supplicant を認証できるようになりました)。
- 802.1X Authenticator ポートにおいて、ゲスト VLAN を指定できるようになりました。

2.12 Rapid STP : エッジポートにおけるループ検出機能

 **「コマンドリファレンス」 / 「スパンニングツリープロトコル」**

Rapid STP のエッジポートでループを検出した場合に該当ポートをディセーブルにする機能が追加されました。ループ検出によってディセーブルとなったポートは、SHOW STP PORT コマンドの「RSTP Port Role」欄が「Backup (Loopback Disabled)」に、「State」欄が「Discarding」になります。また、同コマンドの表示項目に、ループ検出回数を示すカウンター「Loopback Disabled」が追加されました。

2.13 ローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース)

 **「IP」 / 「IP インターフェース」**

仮想的な IP インターフェースであるローカル IP インターフェース (ループバックインターフェース) に対応しました。ローカル IP インターフェースの作成は ADD IP LOCAL コマンドで行います。作成したローカル IP インターフェースのアドレスは、RADIUS や SNMP パケットの始点アドレスとして利用できます。

2.14 Gratuitous ARP パケットの受け入れ・破棄設定

 **「IP」 / 「IP インターフェース」**

IP インターフェースごとに、Gratuitous ARP パケットを受け入れるか破棄するかを設定できるようになりました。設定は ADD/SET IP INTERFACE コマンドの GRATUITOUSARP パラメーターで行います。デフォルトでは、すべての IP インターフェースで Gratuitous ARP パケットを受け入れます。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.6.2 から 2.7.3-06 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

3.1 SET INSTALL コマンド実行時の動作について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ソフトウェア」

バージョン 2.7.3-06 以降のファームウェアが動作している機器では、SET INSTALL コマンド実行により、リリースライセンスの有効化も実施されるため、SET INSTALL コマンドを実行するだけでファームウェア（リリースファイル）を有効にすることができます。

バージョン 2.7.3 より前のファームウェアが動作している機器では、ENABLE RELEASE コマンドを実行し、ファームウェアを有効にした後でなければ、SET INSTALL コマンドを実行できません。

3.2 ファイル名の文字数拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

ファイルのベース名（拡張子より前の部分）に使用できる文字数が 16 文字から 28 文字に拡張されました。

3.3 インターフェース MIB について

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

インターフェース MIB の ifTable の ifType(1.3.6.1.2.1.2.2.1.3) を iso88023Csmacd(7) から ethernetCsmacd(6) へ変更しました。

3.4 スイッチポートの通信モード設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

拡張モジュールスロットに、拡張モジュール「AT-A51」または「AT-A53」を装着したときに、1000M Full Duplex 固定設定が可能になりました。設定は、SET SWITCH PORT コマンドで SPEED=1000MFULL を指定することによって行います。

3.5 ポートランキングと IP マルチキャスト関連機能の併用

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

ポートランキングと IP マルチキャスト関連機能（IGMP、IGMP Snooping）の併用が可能になりました。

3.6 VLAN 名の文字数拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」

VLAN 名に使用できる文字数が 15 文字から 32 文字に拡張されました。

3.7 PING、TRACE コマンドと DNS

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

PING コマンド、TRACE コマンドが DNS を使用するようになりました。

3.8 IGMP Snooping の Leave メッセージの取り扱いについて

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」

IGMP Snooping を単独で使用している場合（IGMP を併用していない場合）、Leave メッセージを受信しても受信ポートをグループから削除しないよう仕様変更しました。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン **2.6.2** から **2.7.3-06** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 ENABLE INTERFACE LINKTRAP コマンドの INTERFACE パラメーターにインターフェース名として設定したポート名、または、インターフェース番号で指定したポートのポート名にスペースが含まれていた場合、設定を保存して再起動すると、コマンドが正しく実行されませんでした。これを修正しました。
- 4.2 CREATE TRIGGER MODULE コマンドの MODULE パラメーターに PING を指定し「?」キーを入力しても、表示されないパラメーターがありましたが、これを修正しました。
- 4.3 電源をオンにしてから、時刻情報を設定しない状態で 24 時間経過すると、コンソールポートからのキー入力ができなくなっていました。これを修正しました。
- 4.4 本製品に Telnet ログインしているとき、Telnet クライアント側で「Ctrl」+「D」を入力するたびにメモリーが消費されていましたが、これを修正しました。
- 4.5 SET TRACE コマンドで、MAXTTL パラメーターと MINTTL パラメーターを設定する場合に、MINTTL の値が MAXTTL の値より大きくなるような設定ができてしまいましたが、エラーとして設定できないように修正しました。
- 4.6 SET PING POLL コマンドの DESCRIPTION パラメーターにスペースを指定して設定を保存し再起動すると、コマンドが正しく実行されませんでした。これを修正しました。
- 4.7 ポートの割り当てられていない VLAN の VLAN ID を持つフレームを受信した場合、フォワーディングデータベース（FDB）に登録されませんでした。登録されるように修正しました。
- 4.8 SHOW SWITCH PORT COUNTER コマンドで表示される Transmit の FCSErrors カウンターが、まれにカウントアップすることがありましたが、未サポート値であるため常に「0」を表示するように修正しました。
- 4.9 タグ付きポートを 802.1X Authenticator ポートに設定してもエラーにならないことがありましたが、これを修正しました。

- 4.10 802.1X Authenticator ポートの Port Status が authorised であるにもかかわらず、Supplicant が通信できなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.11 802.1X Multi-Supplicant モードの Authenticator ポートにおいて、サービスパック 2 (SP2) を適用した Windows XP を Supplicant として使用すると、ログインダイアログが表示されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.12 RESET PORTAUTH PORT コマンドに SUPPLICANTMAC パラメーターを指定して実行すると、対象 Supplicant 情報ばかりではなく、ポート上のすべての Supplicant の MAC アドレスを FDB から削除していましたが、これを修正しました。
- 4.13 Supplicant がログオフした時、または、Supplicant の再認証に失敗した時に、Authenticator ポートの Supplicant 情報が削除されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.14 拡張ポートと拡張ポートでないポートを無効に設定し、設定を保存した後で、拡張ポートを抜いた状態で再起動すると、拡張ポートでないポートが設定どおりに無効にならず、有効で動作することがありましたが、これを修正しました。
- 4.15 ポートがロック状態になった後に不正フレーム受信時のアクションを変更した場合、アクション変更前に一度受信したことのある、未学習の送信元 MAC アドレスを持つフレームを再度受信しても、変更後のアクションが実行されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.16 ポートセキュリティを有効にした場合、設定した学習可能な MAC アドレス数の上限値と学習済みの MAC アドレス数が同じだった場合に、ポートがロックされないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.17 スパニングツリープロトコル (STP) 有効時に ENABLE STP コマンドを実行すると、DISABLE STP PORT コマンドによる各ポートの STP 無効の設定が削除され、STP が有効になっていましたが、これを修正しました。
- 4.18 スパニングツリープロトコル (Rapid モード) 有効時、ポートが Sync 状態になったときに送信する最初の BPDU に Proposal フラグをセットしていませんでしたが、これを修正しました。
- 4.19 スパニングツリープロトコル (STP) の動作モードを変更すると、STP が無効になっているポートから BPDU が 1 パケット送信されていましたが、これを修正しました。
- 4.20 スパニングツリープロトコル (Rapid モード) 有効時、STP ドメインの RSTPTYPE パラメーターを変更してからポートの STP を有効化すると、RSTPTYPE の変更が反映されずに古い設定の BPDU が送信されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.21 スパニングツリープロトコル (STP) 有効時に ADD VLAN PORT コマンドを実行すると、VLAN 内のすべてのポートにおいて、STP のポートステータスが初期化されていましたが、これを修正しました。

- 4.22 STP ドメイン「Default」が有効になっている環境において、複数の STP ドメインに所属しているポートに対して DISABLE STP PORT コマンドを実行しても、ポート無効の設定がすべての STP ドメインに反映されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.23 RAPID モードで STP ドメインを複数作成した場合に、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存すると正しく動作しないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.24 PURGE STP コマンドを実行したときに、BPDU が送信されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.25 受信した BPDU Config の Message Age の値と Max Age の値の誤差が 0.1 秒未満であったときリブートしていましたが、これを修正しました。
- 4.26 ICMP アドレスマスク応答メッセージを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inAddrMaskReps カウンターがカウントされませんでした。これを修正しました。
- 4.27 IGMP 有効時、Non-Querier のときでも、Leave メッセージを受信すると Refresh タイマーを更新していましたが、これを修正しました。
- 4.28 1 つのポートに同一グループの複数メンバーが登録されている場合、そのうち 1 つのホストからの Leave Group メッセージを受信すると、他のホストがいるにもかかわらずグループから削除されることがありましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ファームウェアバージョン **2.7.3-06** には、以下の制限事項があります。

5.1 ログ

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」**

DHCP サーバー機能使用時、クライアントに IP アドレスを割り当てると不正な ARP キャッシュログが記録されます。

5.2 SHOW NTP コマンドの「Host Address」表示

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」**

IP アドレスを変更した後で SHOW NTP コマンドを実行すると、「Host Address」欄には、変更前の IP アドレスが表示されます。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。DISABLE NTP コマンド実行後、ENABLE NTP コマンドを実行すると、表示は更新されます。

5.3 RADIUS サーバーへの要求再送回数

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」**

複数の RADIUS サーバーを登録している場合、RADIUS サーバーへの要求再送回数が、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターで指定した回数と異なる場合があります。

5.4 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

- イーサネット MIB の dot3StatsExcessiveCollisionFrames、dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。
- dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。

5.5 Telnet セッション数の制限

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」**

SET TELNET コマンドの MAXSESSIONS パラメーター（同時に確立可能な Telnet セッション数）が正しく動作しません。実際には、指定した値 +2 として扱われます。たとえば、MAXSESSIONS=3 と設定した場合、MAXSESSIONS=5 として動作します。

5.6 ポートランキング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

- ポートランキングと IGMP Snooping の併用時、マスターポートがリンクダウンすると SHOW IGMP SNOOPING コマンドで表示される Entry timeout 値が更新されます。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。（「マスターポート」はトランクグループ内で最初にリンクアップしたポートを示します）
- トランクグループに所属するポートを、DISABLE SWITCH PORT コマンドの LINK パラメーターの指定で物理的にリンクダウンさせた後で、ENABLE SWITCH PORT コマンドでリンクアップさせると、ポートランキングが正常に動作しなくなります。トランクグループに所属するポートを無効にしないでください。
- マルチプル VLAN（Protected Port VLAN）のアップリンクポートに設定したポートとクライアントポートに設定したポートを、同じトランクグループに所属させることができずしてしまいます。アップリンクポートとクライアントポートは同一のトランクグループに所属させないでください。

5.7 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」**

- Authenticator ポートから IGMP Query パケットが送信されません。その場合には、IGMP Snooping を無効に設定してください。
- DISABLE PORTAUTH コマンドを実行しても、認証済み Supplicant のスイッチフィルターエントリが削除されません。
- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。

- ENABLE PORTAUTH PORT コマンドで、MAC ベース認証ポートを指定して、SECUREVLAN パラメーターの設定を変更しても、ポートに接続してきた Supplicant の MAC アドレスの設定には反映されません。SET PORTAUTH PORT SUPPLICANTMAC コマンドで、Supplicant の MAC アドレスを指定して、SECUREVLAN パラメーターの設定を行うことで、設定は反映されます。
- 802.1X 認証の Authenticator ポート、または、MAC ベース認証ポートに設定したポートで、ポートに接続してきた Supplicant の認証に成功、失敗、タイムアウトした場合でも、SHOW PORTAUTH PORT コマンドの「Backend Authenticator State」欄に表示される認証機構の状態は IDLE のままで、状態の変化が反映されません。また、802.1X MIB の dot1xAuthBackendAuthState の値にも反映されません。
- SNMP マネージャーで、dot1xAuthAuthControlledPortControl の情報を変更 (Set) した後、設定を保存すると、設定の変更が設定ファイルに反映されません。Authenticator ポートの状態を手動で変更する場合は、SET PORTAUTH PORT コマンドの CONTROL パラメーターで指定してください。

5.8 スパニングツリープロトコル

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパニングツリープロトコル」

- Rapid モードで非ルートブリッジとして動作している場合、ポートが Discarding 状態から Forwarding 状態に遷移するときのフォワードディレイタイムとして、ルートブリッジの値ではなく自身の設定値を使用します。
- スパニングツリープロトコル (Rapid モード) を使用しているとき、SHOW STP COUNTER で表示される TCN BPDU の値がカウントされません。
- Topology change が起きた後、FDB が正常に登録されないことがあります。(通信の動作に影響はありません。)
- スパニングツリープロトコルの動作モードが STANDARD モードの場合に、DISABLE SWITCH PORT コマンドでポートを無効にしても、SHOW STP PORT コマンドを実行して表示される「State」欄の表示は、Forwarding のままで、Disabled には変化しません。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。
- STANDARD モードと RAPID モードの両方の STP ドメインに属するポートにおいて、SET STP PORT コマンドで PATHCOST パラメーターを変更すると、エラーメッセージが表示されます。ただし、動作上の問題はなく、現在の設定にも正しく反映されます。エラーメッセージを表示させないようにするには、SET STP PORT コマンドで、STP ドメインとポートの両方を指定してください。
- STANDARD モード時のポートステータスは、ポートのリンクアップ時およびリンクダウン時においても、常に Forwarding 状態となります。冗長構成時の経路の切り替えは、ポートステータスの変化ではなく、MaxAge(デフォルト 20 秒) の Expire によって遷移しますので、ご注意ください。

5.9 ハードウェア IP フィルター

 **「コマンドリファレンス」 / 「ハードウェア IP フィルター」**

EPORT パラメーターを指定した場合、フィルター対象パケットの宛先 MAC アドレスが FDB に登録されていないと、NODROP アクションが機能しません。FDB に登録されているときは正しく動作します。

5.10 IGMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」**

Last Query Interval Timer (retransmit timer) が起動中に Membership Report メッセージを受信しても、Refresh Timer は更新されませんが、Last Query Interval Timer が停止しないため、Group Specific Query を送信します。

5.11 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」**

IGMP Snooping 使用時、複数のメンバーが存在するマルチキャストグループから 1 つのメンバーが脱退すると、SHOW IGMPSPNOOPING コマンドで表示される Entry timeout が更新されます。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

取扱説明書、および「CentreCOM 8424XL/8424TX コマンドリファレンス 2.7 (Rev.E)」の補足事項と誤記訂正です。

6.1 スタンドキット「AT-STND-J01」について (CentreCOM 8424TX のみ対象)

 **「CentreCOM 8424XL/8424TX 取扱説明書」 17 ページ**

取扱説明書に記載がありませんが、CentreCOM 8424TX はスタンドキット「AT-STND-J01」に対応しています。

6.2 ポート帯域制限 (送信レート) の設定について

 **「取扱説明書」 45 ページ**

バージョン 2.6.1 で、SET SWITCH PORT コマンドの EGRESSLIMIT パラメーターで、ポート帯域制限の送信レートの設定を変更した場合、設定を有効にするために本製品を再起動する必要がなくなりました。

6.3 フラッディングレートについて

10/100Mbps ポートが 24 ポートリンクした状態で、拡張モジュールの 1000Mbps ポート (ポート 25) からフラッディングパケットを送信すると、1000Mbps ポート (ポート 26) から送信されるパケットの転送率が下がる場合があります。

6.4 ログ機能について

「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

出力先に「TEMPORARY」と「PERMANENT」を設定して CREATE LOG OUTPUT コマンドで出力先の定義のみ行って設定を保存し再起動すると、メッセージフィルターのエントリが設定されないためログは出力されないはずですが、ログが出力されることがあります。これは、本製品がデフォルトの状態ではログ機能が有効であり、起動時にログの出力先として「TEMPORARY」と「PERMANENT」を設定して、メッセージフィルターが追加されるため、設定ファイルの CREATE LOG OUTPUT コマンドが実行されるまでの間、ログが出力されるためです。

6.5 スイッチング動作について

「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」

- パケットの送信先 MAC アドレスが BPDU のアドレスになっていても、DSAP (Destination Service Access Point) / SSAP (Source Service Access Point) に「0x42」が指定されていなければ、BPDU 透過機能の対象にはなりません。
- 予約済マルチキャストパケットの処理で、送信元アドレスが、01-80-C2-00-00-00 ~ 01-80-C2-00-00-10 および 01-80-C2-00-00-20 ~ 01-80-C2-00-00-2F のパケットはフィルタリングされます。それ以外のパケットは、フラッディングされます。

6.6 1000M Full Duplex 固定設定時の LED 表示について

「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

拡張モジュールスロットに、拡張モジュール「AT-A51」または「AT-A53」を装着したときに、SET SWITCH PORT コマンドで SPEED=1000MFULL を指定してケーブルを接続し、リンクが確立した後にケーブルを抜くと、下記の場合に LINK LED が点灯したままになります。

- ・ TX ポートのケーブルを抜くと、ケーブルを抜いた機器の LINK LED が点灯したままになる
- ・ RX ポートのケーブルを抜くと、ケーブルを抜いていない対向機器の LINK LED が点灯したままになる

どちらの場合も、LINK LED が点灯したままのポートのリンクステータスは、Up のままです。

6.7 MAC ベース認証ポートについて

「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

MAC ベース認証ポートにおいて、認証に成功した Supplicant を定期的に再認証する設定 (ENABLE PORTAUTH PORT コマンドの REAUTHENABLED パラメーターに TRUE を指定) にしても再認証が行われません。

6.8 VLAN 名の文字数について

「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」

バージョン 2.7.3-06 から、VLAN 名に使用できる文字数が 15 文字から 32 文字に拡張されました。16 文字以上の VLAN 名を指定して設定を保存し、ファームウェアをバージョン 2.7.3-

06 より前のものに変更して、保存した設定ファイルを起動時設定ファイルに設定すると、16 文字以上の VLAN 名は有効でないため、VLAN の設定が反映されません。

6.9 ハードウェア IP フィルターについて

 「コマンドリファレンス」 / 「ハードウェア IP フィルター」

- ADD SWITCH L3FILTER MATCH コマンドの NOMATCHACTION パラメータでデフォルトのアクションを指定したハードウェア IP フィルターが存在する場合、その他のフィルターにマッチするパケットに対して、このアクションが実行されてしまいます。
- 複数のマッチ条件を指定したとき、マッチ条件の型が一致するような場合には、本製品のソフトウェアでマッチ条件が一つにまとめられる場合があります。同じパケットに対する処理でも、複数のマッチ条件がまとめられた場合と、一つ一つ実行された場合で、結果が異なる場合があります。

6.10 ICMP Reply の送信について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

VLAN A、B を作成し、それぞれの VLAN に別ネットワークのアドレスを指定（VLAN A に 192.168.1.10、VLAN B に 192.168.1.20 指定、VLAN 内にルーターが存在）した場合に、VLAN A に所属する端末 C から VLAN B 宛に ICMP Request を送信すると、VLAN A と B は異なるネットワークに所属するにも関わらず、ルーターを介さずに、VLAN A から ICMP Reply が送信されます。またこの場合に、VLAN B から A への通信にハードウェア IP フィルターを設定していても、この ICMP Reply はフィルターの条件にマッチしません。これは、ICMP Reply を送信する際に、送信先アドレスを IP アドレスのみで検索し、そのアドレスの所属するインターフェースを送信元としているためです。

6.11 ARP エントリーについて

 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

インターフェースの状態が UP になった場合、同一ポート上に登録された他の ARP エントリーはすべて削除されます。

6.12 Query メッセージの送信間隔について

 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」

Startup Query Interval の間隔で Query メッセージが送信されるのは、起動後に、最初に IGMP を有効にした場合のみで、一度 IGMP を無効に設定してから再度有効に設定した場合は、Startup Query Interval の間隔では送信されません。

6.13 DHCP サーバー機能について

 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

- DHCP クライアントからのオプション 57(Maximum DHCP Message Size) メッセージを受けられません。
- SET DHCP POLICY コマンドの TIMEOFFSET パラメーターには、マイナスの値を設定することができます。

7 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。
太字はコマンド名、細字は該当コマンドのパラメーター名です。

SHOW EXCEPTION
SHOW DEBUG [STACK]
SHOW BUFFER [SCAN] [QUEUEPOINTERS]
SHOW FLASH FFS
CLEAR FLASH TOTALLY
DELETE NVS BLOCK [INDEX]
CLEAR NVS TOTALLY
SHOW FFILE VERIFY
SHOW FFILE [DEBUG]
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE
CLEAR CFLASH
SHOW CFLASH COUNTERS
SHOW CFLASH TEST
SHOW CFLASH REGISTER
SHOW CFLASH SECTOR
SHOW CFLASH FAT
SHOW CFLASH IDENTITY
ENABLE CFLASH DEBUG
DISABLE CFLASH DEBUG
ENABLE CFLASH TEST END [START]
DISABLE CFLASH TEST
ENABLE RADIUS DEBUG
DISABLE RADIUS DEBUG
SHOW RADIUS DEBUG
ENABLE MAIL DEBUG
DISABLE MAIL DEBUG
RESET MAIL
SET MAIL SMTPSERVER=ipaddr
CREATE TRIGGER REBOOT [REPEAT={YES;NO;ONCE;FOREVER;count}]
SET TRIGGER REBOOT [REPEAT={YES;NO;ONCE;FOREVER;count}]

ENABLE SWITCH DEBUG
DISABLE SWITCH DEBUG
SHOW SWITCH DEBUG
ENABLE SWITCH BIST
SHOW SWITCH BIST
SHOW SWITCH MEMORY
SET SWITCH SOCK
SHOW SWITCH SOCK
SET SWITCH PHY
SHOW SWITCH PHY
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH PORT [MODE={MASTER;SLAVE}]
SET SWITCH PORT

```
[SPEED={1000MHALF;1000MFAUTO;1000MHAUTO}]  
ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE  
ENABLE PORTAUTH DEBUG PORT  
DISABLE PORTAUTH DEBUG PORT
```

```
ENABLE VLAN DEBUG  
DISABLE VLAN DEBUG  
SHOW VLAN DEBUG
```

```
ENABLE STP DEBUG [PORT]  
DISABLE STP DEBUG [PORT]  
SHOW STP DEBUG  
SHOW STP PORT RSTPSTATE
```

```
ENABLE SWITCH L3FILTER SWFILTBYPASS  
DISABLE SWITCH L3FILTER SWFILTBYPASS
```

```
SHOW IP CACHE  
SHOW IP CASSI  
ENABLE IP DEBUG  
DISABLE IP DEBUG  
SHOW IP DEBUG  
SHOW PING DEBUG  
PURGE PING TOTALLY  
SHOW TRACE DEBUG  
SET IP FLOW  
SHOW IP FLOW  
ENABLE TCP DEBUG  
DISABLE TCP DEBUG  
ENABLE IP ICMPREPLYMSG  
DISABLE IP ICMPREPLYMSG  
SHOW IP ICMPREPLYMSG  
ADD IP INTERFACE IPADDRESS [FRAGMENT]  
SET IP INTERFACE IPADDRESS [FRAGMENT]  
ENABLE IP ROUTE DEBUG  
DISABLE IP ROUTE DEBUG  
SHOW IP ROUTE DUMP  
ENABLE PING POLL DEBUG  
DISABLE PING POLL DEBUG
```

```
ENABLE IP IGMP DEBUG  
DISABLE IP IGMP DEBUG  
SHOW IP IGMP DEBUG
```

```
ENABLE MLDSNOOPING DEBUG  
DISABLE MLDSNOOPING DEBUG
```

```
ENABLE DHCP [BOOTP] [DEBUG]
```

DISABLE DHCP [BOOTP] [DEBUG]

ENABLE TEST INTERFACE
DISABLE TEST INTERFACE
SHOW TEST [INTERFACE]
RESET TEST INTERFACE
SHOW PKT
SET PKT
START PKT
STOP PKT
MODIFY
DUMP

ENABLE LACP DEBUG
DISABLE LACP DEBUG

SET IP DNS CACHE
SHOW IP DNS CACHE

ACTIVATE SWITCH PORT AUTONEGOTIATE

CREATE IP IGMP DESTINATION
ADD IP IGMP DESTINATION
DELETE IP IGMP DESTINATION
DESTROY IP IGMP DESTINATION
ENABLE IP IGMP ALLGROUP
DISABLE IP IGMP ALLGROUP

ADD IGMP Snooping Router Address
DELETE IGMP Snooping Router Address
SET IGMP Snooping Router Mode
SHOW IGMP Snooping Router Address

LOAD [SERVER=ip6add]
UPLOAD [SERVER=ip6add]
SET LOADER [SERVER=ip6add]
ADD USER RSO IP=ip6add
DELETE USER RSO IP=ip6add
TELNET ip6add

DISABLE IPV6
DISABLE IPV6 DEBUG
DISABLE IPV6 MTUDISCOVERY
ENABLE IPV6
ENABLE IPV6 DEBUG
ENABLE IPV6 MTUDISCOVERY
SHOW IPV6
SHOW IPV6 COUNTER

```
SHOW IPV6 MULTICAST  
PING [IPADDRESS={ipv6add}]  
SET PING [IPADDRESS={ipv6add}]  
TRACE [IPADDRESS=ipv6add]  
SET TRACE [IPADDRESS=ipv6add]
```

```
ADD IPV6 INTERFACE  
CREATE IPV6 INTERFACE  
DELETE IPV6 INTERFACE  
DESTROY IPV6 INTERFACE  
SET IPV6 INTERFACE  
SET IPV6 MTU  
SHOW IPV6 INTERFACE
```

```
ADD IPV6 ROUTE  
DELETE IPV6 ROUTE  
SHOW IPV6 ROUTE
```

```
ADD IPV6 HOST  
DELETE IPV6 HOST  
SHOW IPV6 HOST
```

```
ADD IPV6 ND  
RESET IPV6 NDCACHE  
SET IPV6 ND  
SHOW IPV6 NDCACHE  
SHOW IPV6 NDCONFIG
```

```
ADD IPV6 FILTER  
DELETE IPV6 FILTER  
SET IPV6 FILTER  
SHOW IPV6 FILTER
```

```
ADD PING POLL IPADDRESS=ipv6add  
SET PING POLL [IPADDRESS=ipv6add]
```

8 コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM 8424XL/8424TX コマンドリファレンス 2.7 (J613-M0005-13 Rev.E)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「J613-M0005-13 Rev.E」はコマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>